

階上アブラメブランド化推進事業
取組内容
(令和4年度)

令和4年度階上アブラメブランド化事業進捗状況報告

1. 資源管理

(1) 種苗放流

ア 稚魚放流

[成果]

6月24日、青森県栽培漁業振興協会の協力のもと、町と階上漁業協同組合により、約15,500(※)尾の稚魚を追越漁港沖合で放流しました。放流時の魚体に与える衝撃を抑えて生存率を向上させるため、シューターを使用し、流しそうめんの要領で放流を行いました。採捕サイズに成長するのは約2年後になります。

(※)町8,000尾、漁協7,500尾

[評価]

放流尾数は年々増加させています。

また、令和4年の年間水揚げ量が約3.2トンと令和3年の約1.7トンの約2倍に増加しました。

継続的な資源管理の取組が水揚げ量増加の要因の一つとして考えられますので、今後も活動を継続して、資源管理による効果なのか調査していきたいと思います。

年 度	放 流 尾 数 内 訳	合 計
H30	1,000尾	1,000尾
R元	4,000尾	4,000尾
R2	5,000尾(標識2,500尾)+漁協6,000尾	11,000尾
R3	10,000尾(標識3,000尾)+漁協7,500尾	17,500尾
R4	11,000尾(標識3,000尾)+漁協7,500尾	18,500尾

※尾数はおおよその数。

イ 標識装着（官学連携：水産高校海洋生産科）

[成果]

アブラメの生育状況や回遊範囲等を調査する目的から、今年度も標識タグ（アンカータグ）を稚魚に装着し放流しました。標識付けについては、令和4年7月25日に八戸水産高校栽培実習場において、昨年度同様アンカータグを採用し約3,000尾の稚魚に標識タグを装着後、8月19日に大蛇漁港沖合において放流を行いました。今年は白色のアンカータグを装着し、採捕された際に何年度に放流されたか分かるように区別しています。



標識付けの作業風景



標識付けしたアブラメ



放流の様子

[評価]

令和2年度から始めた取組は、令和2年度は2件、令和3年度は31件、今年度は6件の報告を受けています。

また、令和3年度までは漁港で釣りを楽しむ遊漁者からのみだった報告でしたが、今年度は漁師からの報告も2件ありました。また、八戸ポートアイランド付近で採捕したという報告（八戸水産会館）も受けたため、放流から漁獲されるまでの回遊範囲も今後明らかにしていくため継続の必要があると考えています。

漁獲日	漁獲場所	漁法	全長・体重	放流年度
R4/2月	八戸ポートアイランド	釣り	不明	不明
7/19	追越沖 水深45m付近	かご	19cm・126g	R3
8/13	追越沖 水深20m付近	かご	22cm・115g	R3
8/21	大蛇漁港	釣り	21cm・140g	R3
9/1	〃	釣り	12cm・22g	R4
R5/1/31	〃	釣り	15cm	R4

(3) 漁獲法研究

ア 代替餌研究（官学連携：水産高校海洋生産科）

[成果]

漁獲量アップと海の環境保全を目的とし、一本釣りで使用するアブラメ用の代替餌を試作し、アブラメを漁獲できるか引き続き研究を行いました。

昨年作成したものを改良し、試行回数増加のため地元漁師への提供や、環境に配慮した釣り具を開発・販売している企業との懇談会を行い、助言をいただきながら研究を進めました。

昨年まで、伸び悩んだ釣果ですが、今年度は、アブラメ・カレイなどの成果をあげることができました。

[評価]

改良を重ね魚が釣れるレベルのものが出来上がったため、研究は大幅に進んだと思われまます。

釣果をあげられたこと、漁師や釣り人からも評価を得られたこと、これ以上の研究は更なる専門性が必要になることを考慮し、代替餌研究は今年度の結果から当初の目的を達成したと言えます。



地元漁師の釣果①



釣り具店との懇談会



小舟渡漁港での釣り実習風景



地元漁師の釣果②



釣り具店員の釣果



完成形の代替餌

(4) 養殖実証調査（官学連携：水産高校海洋生産科 R4年度から）

ア 成分分析

[成果]

階上沖で漁獲される天然アブラメと、水産高校で畜養している養殖アブ

ラメの成分（脂質、遊離アミノ酸、脂肪酸）の違い、また、養殖アブラメの成分が通年で安定しているかの成分分析を行いました。分析時期は、

- ・天然アブラメ 6・7月
- ・養殖アブラメ 6・7・9・12・3月

の複数回に分けて実施しました。

[評価]

分析結果については、この後、食品総合研究所職員より説明していただきます。また、分析のためにサンプルとして冷凍保存していた養殖アブラメを皆様に食べていただくこととしております。

来年度以降も養殖実証調査は継続することとし、効率的な給餌量や天然アブラメにはない魅力をもったアブラメを養殖できるよう、内容を深掘りして実施していく予定です。

(5) 漁場調査

ア 漁場調査（官学連携：水産高校水産工学科）

[成果]

稚魚放流、標識放流を実施した漁場にアブラメが根付いているか調査するため、潜水による目視調査と水中ドローンをした生態調査を実施しました。

標識タグがついたアブラメは撮影することができませんでしたが潜水目視調査では54個体、水中ドローン調査で9個体の合計63個体が確認されました。婚姻色（金色に近い黄色）のオスの撮影に成功し、放流した漁場にアブラメが根付いていることを確認することができました。

[評価]

漁場調査を継続しているものの、標識アブラメの確認には至っていないため、今後も継続調査し生態把握に努め、効率的な資源管理に繋げていきたいと考えています。



岩に潜むアブラメ



卵を守る婚姻色アブラメ

2. 消費拡大

(1) 商品開発

ア 八戸水産高校水産食品科による研究(官学連携:水産高校水産食品科)

[成果]

昨年度開発したアブラメ入りの食べるラー油「あぶラー油」を改良し、そのおいしさを生かした料理を作ることをコンセプトに「あぶラー油入り小籠包」を作成しました。

焼き・蒸しに挑戦し、焼きは時間調整が難しく、蒸しについても小籠包の底が蒸し器にくっついてしまう問題がありましたが、レタスを敷くことで、クリアし綺麗な小籠包が作成できるようになりました。

また、改良したあぶラー油はあるでい〜ばレストラン「Mar」のトッピングメニューとして、あぶラー油入り小籠包は、あっぱあかっちゃあ‘ズの新商品として販売を予定しており、階上アブラメのPR及び魚食普及を図っていきます。

[評価]

これまでの開発実績から、来年度は商品開発については一旦休止することとし、必要に応じて随時開発する予定です。

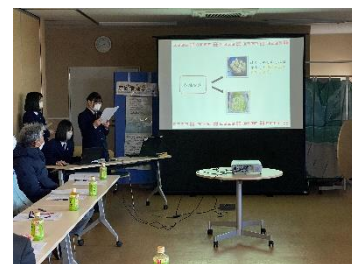
また、イベントや町内料理店で提供するアブラメメニューを、これまでに開発した商品の中から選定していきたいと考えております。



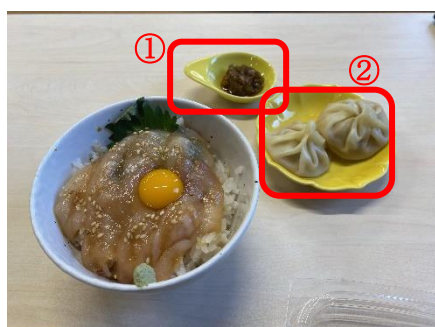
作業風景



完成品



担当者会での高校生の研究発表



新商品お披露目時の写真(左)

①あぶラー油(アブラメ漬け丼トッピングとして提供)

②あぶラー油入り小籠包

(2) PR活動

ア 町外飲食店へのプロモーション活動

[成果]

今年度は、商工観光グループと合同で階上町の食材を東京料理店に提供し、町の食材の美味しさを通して町の魅力をPRする「食材プロモーション」事業を通し、県外の参加者にアブラメの魅力を直接PRしました。

例年1店舗のみの開催でしたが、今年度は「そば酒房福島（13名）」、「8base（22名）」の合計2店舗でイベントを実施しました。

2店舗ともにアブラメを刺身で提供し、イベント終了後のアンケート調査の「美味しかった食材・買ってみたい食材」の項目では、アブラメと回答する方や、もっと刺身を食べたいという声が聞かれ、アブラメの味を大いにPRできたと感じます。（アンケート回収16/34）

また、それ以外にも「ごっつり浅草橋店」にも活締めアブラメを提供するなどし、県外PRも行いました。

また、昨年度に引き続きアブラメの提供を行った「そば酒房福島」様からは、血抜き、神経締めなどの下処理を行って提供してくれる漁師がいれば継続的に取り引きしたいとの声もいただき、アブラメの評価の高さを感じました。

[評価]

アブラメの評価は県外でも高く、PR実績を積み上げることができています。他地域でも評価される魚として、地域ブランドの確立のため来年度以降も継続してPR活動を行うこととしています。



【そば酒房福島でのイベント風景】



【8baseでのイベント風景】

ア 様々な広報媒体を活用した広報活動

[成果]

今年度は、ブランド化事業の取組を既存の新聞社やテレビだけでなく、新たな新聞社・雑誌への掲載により、今までより幅広く広報を行いました。

また、町の情報発信媒体が広報のみだったため、町ホームページに、ブランド化事業での取組みをお知らせする専用ページを作成し、インターネットでもブランド化事業の取組を広報できるようにしました。

[評価]

取組を継続していること、様々な媒体での広報を行ったため、認知度は上がっていると感じられます。

【令和4年度掲載媒体】

デーリー東北社、東奥日報社、日本経済新聞社、NHK 放送（TV）、釣り雑誌「釣り東北&新潟」

ウ 八戸水産高等学校生徒デザインによる PR 用マスクの作製

[成果]

昨年度作製したクリアファイルに引き続き、生徒デザインによるマスクを作製しました。

[評価]

今年度も新型コロナウイルスの影響により、PR活動が大幅に制限され、水産高校生によるPR活動を実施することができませんでしたが、今後あるでい〜ばで魚を購入いただいたお客様に配布するなど有効に活用し、効果的なPR活動に繋げていきたいと考えています。



マスクデザイン



着用時（正面）